

一般社団法人 日本接着歯学会

2021 年度臨床セミナー・専門医認定研修会 Q&A

臨床セミナー「テーマ：変革期を迎えた接着臨床を知る」（2021年5月29日開催）で取り上げられなかったご質問について Q&A を作成しました。演者よりご回答いただきましたので掲載させていただきます。是非、一読いただきますようお願いいたします。

2021年5月31日 学術委員会 一同

大久保力廣先生（鶴見大学歯学部有床義歯補綴学講座 教授）

講演タイトル：有床義歯治療における接着性コンポジットレジンへの応用

Q1：CR 表面に金属クラスプの先端が擦れて黒く痕跡が残ることがあります。予防する方法はありますか？

回答：基本的にはクラスプ内面局所の擦過が原因と思われるので、クラスプ内面の当該部を一層削除すれば予防できると思われませんが、維持力も僅かに減少することが予想されます。装着時にクラスプ内面の微小突起やバリは全て削除され、鏡面仕上げの状態面で接触していることが理想と思われま

Q2：リラインについてご質問させてください。リライン後に接着界面が出ないように工夫されていることがありましたら、ご教示ください。

回答：リライン前に適合試験を行い、一層でもリライン材のスペースが確保できることを確認します。適合試験材があまりに薄くなるような部位には事前にリリースを行います。

Q3：すれ違い咬合などで変位した義歯の修正に咬合面へ CR を填入した場合、クラスプは初期に設定したラインより浮き上がった位置に設置されることとなると思いますが、クラスプの維持力や予後で大きく変化があったケースなどございましたらご教授いただければ幸いです。

回答：ご指摘のように義歯の変位によりクラスプは浮き上がった状態となっておりますので、維持力はほとんどなくなります。変位により生じたクラスプ内面と支台歯とのスペースを CR にて埋め再適合を図ることにより維持力は回復します。しかしながら、すれ違い咬合等でその後も義歯の変位を抑制できなければ、再びクラスプは浮き上がることとなります。予後を良好にするためには、把持力の増強、オーバーレイ化、インプラントの適用等、義歯変位の抑制策も必要となります。